

の血液浄化法への応用展開を可能にする、汎用圧力測定ポートを1個追加。

### 1. 強皮症 (PSS) に対する免疫吸着を用いた選択的血漿成分吸着療法 (IA) の経験

船山いづみ<sup>1</sup>・本間寿美子<sup>1</sup>・雨宮守正<sup>1</sup>・江幡 理<sup>1</sup>  
草野英二<sup>1</sup>・浅野 泰<sup>1</sup>・佐藤英智<sup>2</sup>・岩本雅弘<sup>2</sup>  
三森明夫<sup>2</sup>・箕田清次<sup>2</sup>

自治医科大学腎臓内科<sup>1</sup>, 同アレルギー膠原病科<sup>2</sup>

PSSの皮膚硬化, 及び臓器病変の進行に対して血漿交換や, 二重膜式血漿濾過療法の有効性が報告されている。今回我々は免疫吸着を用いたIAを施行する機会を得たので報告する。

症例は40歳女性, 92年第2児出産後, 手指冷感にて発症。皮膚生検, 免疫学的診断よりPSS, 同時に胸部X線にて間質性肺炎と診断され, ステロイド投与にて皮膚病変のみ著しく改善をみた。95年3月間質性肺炎の増悪にてミゾリピンノ投与を行うも著効なかった。98年5月より皮膚硬化の進行を認めたためIA目的に7月入院。1日処理血漿量を2LとしたIAを3回施行後8月退院。これまでに計4回施行し, 前後で各種抗体などを測定した。施行前には免疫学的には抗核抗体強陽性, 抗Scl-70抗体陽性を示した。1回のIAにてIgG 22.7%, リウマチ因子70.7%の除去率が得られたが, 抗Scl-70抗体, 抗核抗体はほとんど低下しなかった。手のこわばり, 息苦しさなどの自覚症状は早期より改善を認めているが, IAの有効性の判定は今後さらに長期的な経過観察が必要と思われた。

### 2. 免疫吸着剤 CF-X の天疱瘡抗体吸着特性の検討 —第2報—

山田裕道<sup>1</sup>・矢口 均<sup>2</sup>・津田裕士<sup>3</sup>・高森健二<sup>4</sup>  
小川秀興<sup>2</sup>

国際親善総合病院皮膚科<sup>1</sup>, 順天堂大学医学部皮膚科<sup>2</sup>  
同膠原病内科<sup>3</sup>, 同浦安病院皮膚科<sup>4</sup>

【目的】免疫吸着剤CF-Xはcellulose beadsにhemamethylene-di-isocyanateを架橋した新しいタイプの免疫吸着剤である。われわれはこれまでにCF-Xが天疱瘡抗体を高率に吸着することを明らかにし報告してきた。今回はCF-XのIgG吸着特性を特にIgGの各分画につき検討した。

【方法】CF-Xを2ml充填したミニカラムを作製し, 天疱瘡患者血清をカラムに灌流した。ゲル容積の3倍

量の血清がカラムから流出した時点で回収し, 吸着前血清とともに天疱瘡抗体価, 蛋白分画, グロブリン分画, IgG分画の測定を行なった。

【結果】各成分の平均吸着率は以下の通り。天疱瘡抗体価50%, T-p 11.3%, Alb 0.7%, IgG 53.5%, IgA 22.2%, IgM 22.8%, IgG 1 50.2%, IgG 2 41.3%, IgG 3 42.2%, IgG 4 50.4%。

【結論】免疫吸着剤CF-XはIgGを特異的に吸着するが, IgG分画ではIgG 1とIgG 4の吸着率はIgG 2, IgG 3よりもやや高かった。天疱瘡抗体はIgG 1とIgG 4に属するので, この結果はCF-Xが天疱瘡抗体を高率に吸着する原因の一つと考えられた。

### 3. Low Volume column イムソーバPH-250が有効であった低体重RA患者の1例

佐藤正道<sup>1</sup>・菊池栄伸<sup>1</sup>・小池久美子<sup>1</sup>・辻 明<sup>2</sup>  
井上達夫<sup>2</sup>・谷垣佳奈子<sup>3</sup>・平田憲子<sup>3</sup>  
上福岡総合病院臨床工学部<sup>1</sup>, 透析室<sup>2</sup>  
旭メディカル(株)<sup>3</sup>

【目的】低体重患者(45kg以下)に免疫吸着療法(IAT)を施行する場合, 体外循環血液量が多いため, 血圧低下等で苦慮することがある。そこで, イムソーバPH 250(旭メディカル社製)を使用し, 循環動態の改善が得られたRA患者の1症例を報告する。

【対象・方法】従来のカラム(PH-350)によるIATでは低体重状態(26.5kg±1.15)のため, 治療困難であった患者に使用し, 循環動態に対する影響を比較検討した。

【結果】PH-250の血圧・心拍数変化率, 補液回数・量は, PH-350に比べ有意に安定し, 目標処理量達成率はそれぞれ100%, 30%であった。

【考察】従来, 患者の体外循環動態に影響するプライミング容量は赤血球を含む全血容量で, plasma volume (PV)の影響は少ないとされていたが, 自験例の様に低体重ではPVの影響が明瞭に認められた。

### 4. 慢性関節リウマチ (RA) における免疫吸着 (イムソーバ) の効果について

竹下康代<sup>1</sup>・杉井章二<sup>1</sup>・鈴木健二<sup>1</sup>・吉田 健<sup>1</sup>  
相川崇史<sup>1</sup>・山田昭夫<sup>1</sup>・高木信嘉<sup>2</sup>  
国立相模原病院内科<sup>1</sup>, 横浜市立大学医学部第二内科<sup>2</sup>

【目的】RAにおける免疫吸着の効果をも血清学的, 臨床学的に検証する。

【方法】薬物抵抗性のRA患者11人(男2名, 女9